

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401400		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム「くにみの里」		
所在地	長崎県雲仙市国見町多比良戊1449-416		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サービス提供する際は、日々優しい声かけ、美味しい食事、快適な施設、健康管理の徹底、利用者様お一人おひとり安心して過ごしていただける様支援しています。
 今年度は、3棟で行える行事を考え(花見・夏祭り・野菜作り)、毎年恒例の法人内3事業所で行う敬老会も参加家族が増え、盛り上がりを見せている。
 地域の取り組みとしては、小学校の運動会参加、小学校卒業生へのプレゼント作り、福祉体験を受け入れるだけではなく、自分たちができることを活かし、地域との交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年目を迎えた当該事業所は、入居者と職員が生活を共にしながらその人の『できる事がし』を行い、その人が有する力を温かく見守る事を大事にしながらその人らしく、安心できる生活の実現に向け日々取り組んでいます。今年度は勤務体系の変化に伴い、ユニット間での交流や情報共有がなされ、行事や介護の方法等、入居者への支援の充実に繋がりました。職員間のチームワークもよく、入居者への支援の方向性や地域への向き合い方等、職員間で相談や意見交換が頻繁になされ、風通しをよくしながらホーム全体が活気づいている様子が窺われました。管理者及び職員は入居者と一緒に食事の用意や畑の手入れをし、時にはおいしいおやつを作って食べたりと家庭的な温かな雰囲気や家族の介護方針を理解しながら、家族と共にその人を支える姿勢で関わりを持ち支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を理解し、理念に基づいたサービス提供を実施している。	入居者の健康管理とまごころを持って入居者や家族と関わりを持ち、入居者に寄り添いながらその人らしいケアが提供されています。年度ごとに理念の振り返りを行いながら達成度をはかり、次年度の方向性を確認しながら理念の理解を深め取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の卒業式に壁飾りを入居者みんなで作り、学校へ持っていき、子供たちの笑顔が見られたことをとても喜ばれていた。	職員は日頃から地域の方との顔が見える関係性を大事に捉え、地域で行われる季節ごとの行事や日頃の声かけ等積極的に行っています。中でも職員と入居者が地域の運動会へ参加することによって同年代の世帯との接点を持つことができ、地域との親睦を深めることに繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験の受け入れを行い、認知症の資料と体験を通して認知症を知る機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スクリーンを用い、写真をうつしだし、家族より施設での生活がよくわかったと喜ばれている。毎回、相談や意見を頂き、サービス向上に努めている。	定期的に開かれる会議では、その時期に応じた議題について話し合いが持たれ、支援についての具体的な思いや方法が出席者に伝えられ、活発な意見交換がなされています。今回は会議内に於いてセンサーの使用目的について話し合い、家族の考えや介助の際の姿勢等双方向的な意見交換がなされました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催の「国見ケア会議」に参加し、地域との情報交換を行っている。	職員は入居者の暮らしぶりを見ながら入居者や家族の思いを汲み取り、その方が安心して日々過ごすことができるよう適切な相談先へ繋がっています。在宅復帰を目指す入居者の背景を考慮しながら包括支援センター、家族とのパイプ役を担い、その方がホーム入居後も継続して在宅復帰できるよう調整を行う姿勢で取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で議題に上げ、勉強会を行い、推進会議の議題にも上げ、家族からの意見も頂き、拘束をしないケアの実践に努めている。	日々の生活の中で身体拘束を行わないケアの実践に努めています。家庭的な雰囲気の中で、どのような対応が本人の気持ちを和らげることができるのかを職員間で常に話し合いを持ち、入居者に添った方法で寄り添い支援されています。玄関の施錠はなく、入居者が自由に敷地内の散歩や庭先を眺めることもでき、穏やかな時間が保たれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	推進会議の議題に上げ、家族に説明し、職員間においても虐待防止について理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修会に感化出来るようにしており、資料はいつでも目を通せる場所に置いてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な説明を行い、改定時には、文書を作成し、わかりやすく丁寧に一人一人十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議にも参加をお願いし、面会時にも直接意見や要望を聞いて、すばやく対応できるように取り組んでいる。	入居者や家族の声に常時耳を傾け、入居者の暮らし方や家族の介護方針に添ったケアに努めています。職員は入居者の変化や様子をこまめに家族へ報告し、またその時々生じる家族の不安や心配に寄り添いながら入居者や家族が安心して過ごす事ができるよう共に支える姿勢で支援に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所で管理者会議を行い、職員からの意見や提案をまとめ、施設長が法人会議の中で意見や提案を報告している。	職員は入居者の日頃の思いや外出先等入居者の声を大事に捉え、職員会議等で話し合いをしながら自宅と近い生活の実現に向けて取り組んでいます。職員間のチームワークもよく、施設長や管理者が、職員や入居者にとって身近な存在となりながら意見が運営に反映するよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境や条件の整備に努め、給与の見直し等がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を常に掲示し、職員一人一人が研修に行くように勧めている。 また、資格取得の為に協力をしている。 法人内での研修が毎日行われ、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	国見ケア会議に出席し、情報交換をし、ケア向上に努めている。 雲仙市グループホーム協議会への研修に参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みの際には必ず施設見学をお願いし、利用前には本人との面談を行い、生活状況や困っている事や不安を聞き取り、安心して利用できる体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に家族の苦労や困っている事、不安に思っている事や今までのサービス利用状況等聞き取りを行い、共に入居者を支えられるよう信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族より状況を聞き取り、支援の提案、相談を必要なサービスに繋げるように計画に取り入れ反映させ作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や生活歴を活用し、出来ることを継続や、役割を職員と一緒に行う事で、共同生活者の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時や電話にて報告、相談すると共に、月に一度発行の里だよりにも状況を記載し、家族に現在の状態がわかるようにしている。また面会に来て頂けるよう声掛けを行ったり、受診など職員と一緒に同行して頂き、家族と共に入居者を支える支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの店や散髪屋、自治会の行事、デイサービスの友人訪問等入居前の生活状況を継続でいるよう支援している。	敷地内に通所施設があることや、地域行事に職員と共に参加しながら、職員はその方が大事にしていた人と個別に繋ぎ自宅で暮らしていた頃に親しくしていた友人と交流を再開できるよう努めています。「自宅に帰りたい」との本人の思いや家族と過ごす時間を大事に捉え、受け入れる家族の不安や負担を考慮しながら一時帰宅の実現に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごす時間や気の合う者同士が自由に過ごせる時間を作り、利用者同士の関係が上手くいくように支援している。 利用者が孤立しないように職員が声を掛けたり、話の橋渡しをしたり、職員を介して交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された方も見舞いに行ったり、退所後の受け入れ先等を相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より日々の関わりの中で情報収集したり、家族からも情報収集し思いや意向の把握に努めている。	職員は入居者と過ごす中で些細な言葉や仕草から思いを汲み取り、入居者の暮らし方や日課等、入居者や家族と話しをしながら個々に応じた対応に努めています。集団生活の中で失われがちな自己選択や、意思決定をの機会を大事にし、その人らしく生活できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から些細な事でも聞き取り、日々情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることに着目し、日々の生活リズムや心身状態を全員が周知できるよう、個人記録に記入し、1日の生活が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、医師、看護師と関わり、思いや意見を取り入れ、計画に反映させ作成している。	介護計画の立案にあたっては、本人や家族の意向を確認し、本人にも課題をクリアするための目標を伝えながら本人に適する援助内容が検討されています。職員は常に入居者の「できる事」探しをしながら、その人らしい生活がどのようなものなのか検討し、家族の意向や本人の思いを汲み取りながら計画に反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は個別のいろくに記載し、全職員が確認できるようにしており、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者家族の状況に応じ必要な支援は迅速に対応し、本人、家族に満足して頂けるように努めている。デイサービス利用から入居になった方等、友人と面会を支援するなど、関係が絶えないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店や美容室等の馴染みの店に行ったり、施設の買い物に同行してもらう等、共に生活しているものとして生きがいを失わないよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医院での医療が受けられる様、家族と協力して通院介護を行っている。また、受診ノート、生活記録を持参し、医師との情報共有を出来るようにしている。	ホーム協力医の定期的な往診のほか、入居者個々に応じて専門医の受診支援をしながら入居者の健康管理に取り組んでいます。定期受診の際の家族への報告や些細な体調変化も家族にこまめに連絡し、家族の意向や意思確認をしながら本人や家族の思いに添った支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の看護師訪問にて状態を報告相談している。特変時にはすぐに連絡、相談し、対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師と情報交換しながら可能な限り早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した終末期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	重度化した場合における対応の指針や、看取りの同意書を準備し、ホームでできる対応や家族の意思確認をしながら、個々に応じた対応がなされています。職員はその人が最期まで尊厳ある生活が保たれるよう、ホームでできる範囲の医療的な知識を深め、主治医や家族と共に心身の状態に応じたケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受けながら応急手当やAEDの使用の研修を行っている。また、夜間緊急時のマニュアルを作成しており、個々に連絡がつくように居室に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署より、地域情報について過去に近くの川が氾濫したことも伺った。マニュアルを作成し、日中、夜間を想定し、利用者と共に避難訓練を行っている。また、敷地内にある他の施設とも協力体制を築いている。	定期的な避難訓練では入居者も参加し、腰窓からの避難誘導方法など、職員のみならず入居者も体得し身を守る取り組みがなされています。初期消火や通報、避難誘導など職員の参加に隔たりがないよう、記録に残しながら次の訓練へと繋がれています。訓練では民生委員や地元消防団員の参加もあり、避難後の見守りなど協力体制も得られています。今年度は備蓄品の再整備に取り組み、入居者が実際に口にできる食材を職員間で検討されました。	現在、火災訓練への取り組みに重点を置き、風水害への訓練が未実施の状況にあります。地震や風水害の訓練をはじめ、防災計画の策定によって職員への意識付けを強化し、災害による被害の軽減に努められることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、さりげないケア心がけ、言葉かけには十分配慮している。	入居者の誇りを大事にし、言葉遣いや声のかけ方など職員間で注意を払い、対応に努めています。入居者が生活する中で、何事も入居者の意向を確認し、無理強いないケアが実践されています。共に生活する上での入居者間のトラブルにも、職員が仲介役となり、距離感を保ちながら解決に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が話せる雰囲気を作り、話しやすい環境を作るよう努めている。自己決定を促す声掛けをしている。うまく意思表示が出来ない場合であっても表情等を注意深くキャッチして自己決定が出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望みを会話の中からくみとり、希望に添えるよう支援し、その方の気持ちを尊重し、どのように過ごすかを話し合いながら共に生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日本人が選んだ洋服を着ている。馴染みの床屋に行かれるか、2ヶ月に1回の理容を選ばれたりしている。家族に散髪を頼まれる時も電話等を行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食べたい物を聞いて献立を立てたり、簡単な調理を手伝って頂いたりしている。また食事が楽しくなるような会話をしながら一緒に過ごしている。また、食器洗いやお盆拭きの役割分担がある。	季節のものや地元で収穫された新鮮な野菜が多く使われた献立は、入居者の嗜好を考慮しながら視覚や食感を大事に調理されています。食事は皆職員の手造りで準備され、入居者が負担なく全量食べることができるよう取りやすい小鉢に添えられています。ホームの畑では入居者が植えたお野菜が実り、畑とホームを自由に行き来しながら手入れを楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食べやすい形態の工夫をして提供している。また、食事量、水分チェック表を活用しながら一人一人の状態を把握し、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人にあった方法で口腔ケアを行っている。歯科にも定期的に口腔内の状態を見てもらい、指示をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導し、トイレでの排泄が行えるようにしている。	身体機能の低下に伴い、できることも徐々に奪われてくる現状にありますが、その中でも自分でパットの交換やズボンの上げ下げなど、本人ができることを時間をかけて見守り対応しています。入居者それぞれに応じた排泄環境を整えながら、失敗しないケアの実現に向け取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動やレクリエーション、体操を行い水分補給を促し、医師に相談しながら薬による排便コントロールを行っている。食事にも多くの野菜を取り入れた献立を作り美味しく食べて頂ける様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や気分に合わせて入浴を実施している。	職員は入居者に対して入浴時にお湯に浸かり、ゆっくりと寛いでもらいたいとの思いがあり、入居者それぞれに応じた介助の方法を職員間で検討し、安心して入浴できるよう取り組んでいます。清潔保持の観点から1日おきの入浴を実施し、脱衣所の室温など入浴環境を整えながら入居者が負担なく入浴できるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を知る事で就寝時間を把握し、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝具も天気の良い日に天日干しを行い、気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の処方、効能、副作用の説明をお薬手帳にはさみ、全職員が分かるように徹底している。薬剤師からも説明を受け、薬が変更になった時は要領書に必ず書いて全職員		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作体験者が入居しておられ、その生活歴や経験を活かし、敷地内に畑を作り、野菜を育て、収穫したり、自分の好きな事が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の小学校の行事や、買い物や外食を行い、家族の協力を得て自宅に帰ったり、本人の希望に沿った支援を行っている。	職員は入居者が外にでる機会を大事に捉え、受診や買い物、外食等を積極的に取り入れています。入居者は普段とは違う景色や季節感を感じることができ、表情を豊かにしながら楽しんでます。花壇や畑で季節感を感じ、体を動かすことで気分転換が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの買い物に同行したり、受診の帰りでスーパーに寄って買い物の支援を行っている。少量のお金を所持し、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時はいつでもかけられるように支援している。聴力の弱い方の為に変わって通話する事もある。手紙の代読も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は全てが視界に入り、落ち着いてくつろげる。季節感のある掲示物をしたり、季節の花を花壇で育てて活けたり、季節をすぐ近くで感じる事が出来る。	採光や室温調整がなされた共用空間では、入居者が安全に車椅子でも十分に行き来できるスペースが確保されています。職員の手入れによって清潔感が保たれ、温かな色みの家具が家庭的な温かみを添えています。テレビ周辺には入居者にとって居心地のいいソファや椅子の準備があり、共用空間の中でも気があった入居者同士が自由に過ごせるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で1人ゆったり過ごせたり、入居者が互いに居室を訪問され、自由に行き来が出来る支援を行っている。隣の棟にも自由に遊びに行かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住む場所は変わっても本人の好みに合うように好きな様に居室を使い、心地よく過ごせるようにしている。	自宅での生活ができるだけ継続されるよう本人が大事にしていた家具や手まわり品が持ち込まれ、入居者が安心して時間を過ごせるよう配慮されています。家族と相談しながら趣味活動の道具が準備され、折り紙を通して入居者同士の交流の機会となっている様子も窺われました。その人らしい家具や座イスの配置がなされ、寛げる居室が準備さ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方にはブレーキをかけやすいように筒を付けたり、居室が分からなくなった方には居室前の名札を大きくしたり、食卓の椅子の高さを調節し、楽しく生活できるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し、その理念に基づいたサービス提供が出来ているか、考える場を持ち、職員全員で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体がこの地域に存続している事で、地域の拠り所となり、安心に繋がっている。また小学校、幼稚園の行事に参加して、地域との交流が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談所として窓口を開いており、地域の高齢者支援が出来る体制を取っている。福祉体験学習で認知症の資料や体験を通じて、理解をして頂けるよう支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退所、開催行事、サービスの取り組みについて報告し、意見をもらっている。写真を使って雰囲気分かる工夫をしている。介護や健康についての勉強会をともに行い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方に運営推進会議への参加をして頂き、事業所の現状を伝えたり、国見ケア会議に参加し、良い連携が取れる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないでいい介護をしている。社内研修で学び取り組んでいる。不穏を察知したりさりげなく言葉かけをし、見守りを兼ねて一緒に行動する等、配慮したケアをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止に関心、理解浸透に努めている。理念にもあるように優しい声かけに努め、ご家族との議題にも取り上げたり、法人の研修会へ参加し、学ぶ機会を設けている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護事業を活用しておられる方はいないが、資料を用意し、職員の勉強や家族からの相談に活かせるようにしている。社内研修で学び、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な理解が得られるように説明を行い、改定時には文章を作成して、一人一人十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	疑問や要望について、何でも話して頂けるような信頼関係を築くように努めている。玄関には意見箱を設置しており意見要望には素早く対応し、ケアの向上に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務にて職員の意見や提案を報告している。管理者会議にて職員の意見や提案を報告している。挙げた意見等は、施設長が法人の会議で提案することで反映の機会を得るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の効率化を図り、長時間の業務にならないように工夫するなどし、声を掛け合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を常に掲示し職員一人一人に研修に行くように勧めている。また、資格取得の為に協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「国見ケア会議」が開催されており、それに参加することで、他事業所と情報交換をし、交流を持つ機会を広げている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が持つておられる不安や困っている事について耳を傾け、安心して利用できるという気持ちになっていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談を行い、これまでの苦労や困っている事、不安な事、要望等を聞き取りを行い、共に入居者を支えられる信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族と交わり、思いやり意見を取り入れて計画に反映させて作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重しながら職員が生活支援をし、入居者自身も家事等に参加出来るような環境を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時や電話にて報告、相談し月に1度発行の里だよりにも状況を記載している。 また、面会の声掛けや受診などに同行して頂いたりして、家族と共に入居者を支える支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの店や散髪屋等へ行けるように支援しており、知人や友人との交流したり出来る。行きたいところにいつでも行けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が声掛けをしたり、話の橋渡しをしたり、職員を介して交流が出来るように支援している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された方も見舞いに行ったりすることで、退院後の受け入れ先等の相談や他サービスの検討をしたりするなど支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より日々の交わり合いの中で情報収集したり、ご家族からも情報収集し、本人やご家族の思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人やご家族から些細な事でも聞き取りし、利用されていた事業所に情報提供を依頼する等本人の状況を知ることが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることに着目し、日々の記録によって生活リズムや心身状態を全員が周知し把握している。作業等職員と共にして頂き有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者やご家族の思いや、必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れ、本人の現状に合う計画になるように反映させ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供するサービスについて、個別に記録する中に記録する中に実践状況が分かるよう記載している。プランに沿って入居者が生活出来ているか全職員が把握、共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者とご家族の状況に応じ必要な支援は迅速に対応し、本人家族満足して頂けるように努めている。デイサービス利用から入居された方等、友人との面会を支援する等し、関係が絶えないようにしている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店や美容室等親しみの店に行ったり、施設の買い物に同行してもらうなど共に生活しているものとしての生きがい失わない支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医院での医療を受けられるようご家族と協力し通院介助を行っている。受診時は受診ノート、生活記録を持参し、医師と職員が情報を共有できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の看護師訪問にて状態の報告、相談をしている。特変時にはすぐに連絡相談をし、対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院経過報告書を作成し、医療機関や家族とのやり取りを記載し、早期退院に繋がるように活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に看取りについての指針を記載している。28年2月に社内研修で看取りについての勉強会を行い、安心して納得した終末期を迎えられるように随時意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受けながら全社員を対象に年に1回救急救命講習の研修を行っている。AEDの使い方について指導を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害に備え日中と夜間を想定し利用者と共に避難訓練を行っている。地域との協力体制については自治会長に依頼し、地域との協力体制を築いている。定期的に災害備蓄品の点検もを行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の気持ちを大切にし、さりげないケアである様に心掛け、言葉を選び、言葉掛けには十分配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に入居者の思いや希望が話せる信頼関係を作り、自己決定が出来るように声かけをしている。うまく意思表示が出来ない場合であっても、表情等で気持ちをキャッチできるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望みを会話の中から汲み取り、希望に添えるよう支援し、その方の気持ちを尊重し、どのように過ごすかを話し合いながら、生活を共にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は着たい服をご自身に選んで頂いている。馴染みの美容室に行かれるか2ヶ月に1度の訪問理容を選ばれたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて献立を立てたり、季節の食材を多く使うよう心掛けている。食材の下ごしらえや簡単な調理にも積極的に参加してもらい、片づけも食器洗いやお盆拭きの役割分担をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食べやすい形態の工夫をして提供している。また食事量、水分チェック表を活用しながら、一人一人の状態を把握し、1日を通じて確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の手入れや歯磨きは、ご自身で出来るところまでして頂き、出来ない部分を介助にて衛生を保つようにしている。歯科の往診による口腔衛生について指導を受ける体制も作っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表も使用し、排泄リズムをある程度把握し、尿意の無い方にも時間を見計らって誘導し、トイレでの排泄につながるようになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行訓練やレクレーションに体操を取り入れている。食事にも野菜中心の食事にし、必要な水分量を確保するようにして、排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午前と午後に入浴を行っている。入居者の体調や気分に合わせて入浴を実施している。自分に合った好みのシャンプーを使用されている方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はその方の望む時刻に就寝して頂いている。眠れない時は話し相手をし、ゆっくり眠れるようにしている。室温についても一定温ではなく、その方に合った室温を心がけ乾燥にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し、全職員がわかるようにしている。誤薬がないように職員が何度も確認し、その方に合った服薬の仕方も工夫している。薬の処方が変更になった時は様子観察を行い、主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や地域の行事参加等楽しみ事をみんなで行っている。施設内に畑を設けて、農作業を取り入れて、生きがいを持って、野菜を作ったり、花を植える支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食を行ったり、季節に応じた外出をして、気分転換を図っている。外泊等も家族と相談し、希望に沿えるよう話し合っている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族との話し合いのもと、少額の金銭管理をして頂き、ご自身で買い物等して頂いてる。出来ない方は事務所にて金銭を管理させて頂き、買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時にはいつでも掛けられるようよう支援をし、聴力の弱い方の為に、代わって通話をすることもある。手紙はすぐ書けるように切手ははがきを用意してもらい、ポストに投函する支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は一体的な造りで全てが視界に入り落ち着いてくつろげる空間にしている。季節感にあふれる掲示物で和んでもらえるようにしている。居間から見える庭には季節の花を植えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは自分の好きな所に座られたり、それぞれ自由に会話を楽しんだり、一人になりたい時も自由に自分の部屋に戻ったり出来るようにしている。入居者同士が互いに居室を訪問されたり自由に行き来が出来るとも支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭でも使用していたものを持ち込まれたり、居室のレイアウトは個々が自由にされている。住む場所が変わっても、戸惑うことが少ないように、その方の個性に合わせた配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレは分かりやすい大きな文字で示したり、それぞれの居室が分からない方にも、目印になる物を置くなどしている。居室内でも表示するようにもしている。		